

芙蓉会会報

創刊号

会員の皆様へ

芙蓉会会長 板橋 マサエ



この度、芙蓉会会報を創刊できましたことは、同窓会の初代会長

マサ江先生（櫛田）、明倫高等女学校第一回卒業生の弘明寺の水谷トメ様（旧姓佐久間）のお二人は同窓会の在り方に随分と気を配られ御尽力下されたとか、深く感謝し、ただただ頭の垂れる思いでございます。

菊地富美子さんと、八年の長きに亘って二代会長として御尽力頂いた石川鏡子さんの切望が実現した訳で、かてて加えて同窓会の校内幹事の先生方の温かい御協力を得て芙蓉の花を咲かせることができました。二年前より会の運営に携わる様になって気が付いたことがあります。それは何事にも恬淡な気持ちでいいと不可ないということでした。幸い良いブレーションに恵まれ副会長、杉原照子さん（旧姓河原）高橋静子さん（松原）お二人に、『今まで御苦労下さった人達のこの仕事を続けることに意義があるのだから頑張りましょう』と励まされました。校内幹事の佐野ヒサエ先生のお話に依れば、山

五十路を越してから的一年は、どうしようもなく早く過ぎ、気が許りが先行して何事も為し得ない昨今でしたが、漸く芙蓉会会報を通して多くの同窓会員のパイプとしてお役に立てば、それがまた明倫を心のふるさととして互いの安否を測り知るよすがにしたいと思ひます。昭和59年6月の幹事総会の折、明倫高等女学校第三回卒業生の古久保栄子様（旧姓池田）より同窓会に多額の御寄附を頂きました。お蔭様で有り難く、生徒の活躍の為に運用させて頂きました。梅雨も明け暑い夏のさ中に会報がお手元に着くと思ひますが、どうぞ呉々も健康で幸せであります様、祈って止みません。

同窓会誌の発刊を祝して

理事長 藤井 真水



このたび、明倫学園同窓会誌創刊号が発行されましたことは誠にめでとうございます。横浜は国際港都で、早くから全国に先だつて女子教育の進んだ土地柄で、外国の基督教系の学校の多い中で、横浜の真言宗寺院で仏教的教育をしたいと云う目的で婦徳を涵養するを建学の精神として女子教育を計画してきました。昭和六十四年は、既に六十周年を迎えることに

わが明倫学園の伝統

学校長 佐伯 隆定



私が初めて明倫に奉職したのは昭和三十五年春であるから、もう二十七年の昔になる。丁度この年、中央校舎の建設が随音高く進められ、学校全体が活気に溢れた時代であった。考えてみれば私も明倫学園六〇年の歴史の半分近くを勤めさせて頂いたことになる。この六〇年の間、実に一万二千有余の

卒業生が学園を巣立っている。その中には故人となられた方もいるだろうが、現実には一万有余の同窓生が存在するということはまことに頼もしい。近年急増期の中で生まれた新設校とは、訳が違うのである。それにしても、この一万人からの卒業生が今どうしているか、その生きざまは千差万別推し量る術もないが、母校に寄せる懐旧の情はおそらく一様であろう。朝の勤行や修学旅行、合唱コンクールに運動会等、青春の一齣を思い出すにつけ万感胸に迫るものを覚える方もいるだろう。時は移れども母校は母校、あなた方の故郷なのである。この故郷もまた年々歳々人同じからず、人も変れば雰囲気も変わる。大岡校舎時代を知る先生はたつたの三名、昭和四十二年の保土ヶ谷校舎落成式に出席した先生も十人位のものである。教職員

の気分も変り、最近では新人類と徒名される教師も出てきた。変らないものと云えば、般若心経の読経と比較的行き届いた生活指導である。どちらも在校生には余り歓迎されないが、卒業生はきつとその価値を理解されていると思う。これこそ明倫学園の伝統であり、これを守ることが我々に課せられた使命の一つであると信じている。

それらの建物を移築改装して講堂は阿字観道場に、料理教室は宿舎又合場所として使用されています。特に大岡町時代の卒業生は、嘗ての学んだ教室であり、講堂であり、思い出深いものがあることでしよう。

弘法大師が、わが国最初の私学「種芸種智院」を京都に開設して庶民のための教育施設として始められました。その精神を現代に生かすために、わが明倫学園が、豊かな人間性と自覚に満ちた精神を以て、世のため人のためにその身を挺身する人材を養成すること、を建学の精神としているのですが、阿字観道場に於いて、一字禅を修することは生徒としても同窓生としても大切なことです。同窓会の御発展を祈ります。

ご紹介とお誘い

増徳院阿字観道場壁面

弘法大師御一代

第三回卒 石川 鏡子

「阿字観道場」、大岡町の旧校舍に学んだ同窓生はご存知ない方が多いと思います。この道場は大岡町の木造校舎の講堂を保土ヶ谷岩井町への学校移転に際し現理事長長藤井真水先生が住職でいられる南区平楽の増徳院境内に移築改装された道場です。各分野の方の修養の場として阿字観実修や研修に活かされています。

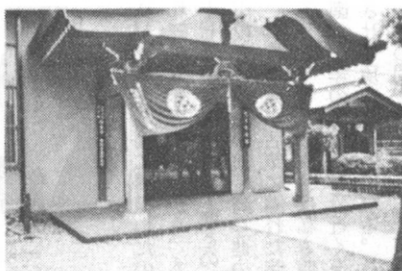
ております。私達芙蓉会役員も慶讃法要に招待をうけ、壁面を拝観させていただき、画面からほとばしる莊嚴な迫力に圧倒され、言葉もなく立ちつくす思いでした。芙蓉会の会員の皆様にも是非拝観していただき、弘法大師のみ教えを根底とした学校に学んだ者として、今一度弘法大師の足跡を辿り、その計り知れぬ偉大な心を日常生活の糧にさせていただけたらと存じご紹介する次第です。

拝観は日曜日以外本堂の受付に申し出れば鍵を貸して下さいます。増徳院は山手の「外人墓地」「港の見える丘公園」等の山続きで高野山真言宗準別格本山の格式高い寺院で、その境内に一步入りますと正面に「修業大師尊像」があり、四国八十八ヶ所のお砂が集められております。本堂前には、帝室技芸員高村光雲作「聖観世音像」がまつられ、四季折々の花が美しく咲き、訪れる人々をやさしく迎えてくれます。

このたび、この道場に弘法大師ご入定千五百年と遠忌の記念事業の一環として、藤井理事長の心血を注いでのご尽力と理事長の意を十分に理解し、十年余の年月をひたすら壁面完成のために奉仕された千地秀也画伯のご努力によりまして、弘法大師のご生誕からご入定までのご一代記の壁面が見事に完成し、さる4月24日、「増徳院阿字観道場壁面完成慶讃法要」が高野山金剛峯寺座主阿部野竜正管長親下を始め、多数の来賓が出席され、盛大に行われました。

壁面は前記のご一代記を主として釈尊のご誕生とお涅槃の図、ならびに三蔵法師、仏教東漸、シルクロードの大風景を含むもので、理事長のご挨拶によりましては、その壮大雄大さにおいては、日本では恐らく稀有のものと思惟され、道場に参籠する修行者は等しく感嘆恭敬措く能わさるものとなつております。

母校では毎年卒業を控えた三年生がこの阿字観道場で一日の阿字観修養を行っております。最後に阿字観の意義は大変奥深くとても説明できませんが阿（ア）の字を観るの観法のことであり、蜜教の禪観の一つでもあり私達の心を寂靜で安定した境地に到達せしめる一



つの修行方法であると書かれています。道場に座すれば解けるかも知れません。一度お出掛け下さい。所在地 南区平楽一〇三番地
電話 二六一一三〇一二
交通 市バスで桜木町駅前11系統保土ヶ谷駅東口行「増徳院前」下車



思いで多き同窓会旅行

第29回卒 吉田 千春

同窓会の旅行が初めて計画されたのが、昭和55年の夏からで、今年で六回目を迎えようとしています。

それでは、回を追って旅行内容を紹介します。

一回目、高野山と京都（清水寺）一泊二日の旅。

初めての試みとあって、少々不安はあったものの、参加者40名とまずまずのスタート。

修学旅行の高野山とは又違った趣で心にジーンと残るものがありました。

二回目、会津裏磐梯（東山温泉）一泊二日。行程「野口記念館見学」飯盛山（白虎記念館見学）そしてメインに五色沼散策。

お天気にも恵まれ、色鮮やかさを一層増していました。

三回目、長野草津方面、戸倉温泉一泊二日。

千曲川を後にして懐古園（島崎藤村の作品を見学）、善光寺参り。りんご園でのまるかじり。甘ずっぱいりんごの味が忘れられません。

四回目、さわやかな高原の旅と題し、白樺湖を中心に、蓼科、八島温泉を散策。八月なのに高原ではもう秋風が吹いていました。

外で食べるバーベキューの又格別なこと。馬刺しをうま肉といっておいしそうにはおぼろの子供達の顔が印象的でした。

さて、旅行も五回目と好評の中、



昨日の興奮もさめやらぬまま、一行は日本ライン下りへと向います。水しぶきをあげながら、ガイドさんの指さす方を右へ左へ。さてさて、書いていけばきりがありません。参加して頂ければ旅行の楽しさがお分りになると思います。

そして何よりも、卒業生としてのコミュニケーションづくりにおいて役に立てれば幸いです。

ご家族、ご友人をお誘い合わせのうえでご参加下さいますようお願い申し上げます。

《六十一年度 活動報告》

◎昭和61年度 幹事総会報告

一期日 昭和61年6月7日
場所 明倫高校 会議室
一総会
1 挨拶 板橋会長
2 議長選出 18回卒 南あや子
3 議事
(1) 報告事項 昭和62年度の活動・決算の報告
(2) 審議事項 昭和61年度活動計画・予算案
(決算・予算は下記の通り承認されました)
(3) 芙蓉会旅行先決議
4 年度幹事自己紹介
幹事総会は右記の内容で第1回から第36回卒業生までご多忙の中、36名程のご出席を頂き審議を進められました。

◎念願!!

記念すべき第1号会報の発行兼ねてからの念願であった第1号の会報が発行される運びとなりました。今回は初めてということで御満足頂けるものではないですが、今後は研究を重ね、会員の方がお知りになりたい情報を満載にした会報へと努力してまいりたいと思います。

◎『盛況 芙蓉会親睦旅行』

芙蓉会親睦の旅も6回目と回数を重ね、毎年参加下さる皆様からお喜びの声を聞かせ頂いております。昨年は8月24日、25日の一泊二日。一日目は右手側に大花火、左手側に有名な長良川の鵜飼見物をしてながらの船上での大宴会。二日目は日本ライン下りと盛り沢山で子供から大人まで楽しい旅をし

てまいりました。

◎同窓会名簿発行

高等女学校から六十年代卒業生までの名簿元帳を整理し、同窓会名簿を製本いたしました。残念ながら住所変更がありまして御連絡下さらない方が多数おりますので大変な作業でした。苦心の作です。多くの方々が御利用いただける事をお願い申し上げます。

明倫祭のご案内

秋暑の厳しい日々が続いております。同窓会会員の皆様にはご健勝のことと存じ上げます。今年度も左記の通り、明倫祭を開催いたしますので案内申し上げます。

文化祭 9月27日(日)

体育祭 10月10日(土・体育の日)雨天延期

◎同窓会模擬店

生徒さん方に混ざり一部屋教室をお借りして、同窓会特製の「おしろこ」「おでん」の模擬店も恒例になり、昨年度あたりは開店前から列が出るほどで、あつと言う間に売り切れ。毎年楽しみにして下さる方も増えているようです。

◎旅行

本年も同窓会旅行を予定しております。日程は8月24日(月)・25日(火) 行程は 大谷磨崖仏・大谷資料館・那須岳散策・りんどう湖フアミリー牧場

◎文化祭の模擬店

「おしろこ」「おでん」の模擬店を計画しております。※会報への情報を集めております。何かございましたら、御一報下さい。

《六十二年度 活動計画》

第27回卒 浅野由里

昭和62年度 明倫学園同窓会予算書

S. 62. 4. 1
(単位 円)

<収入の部>

前年度繰越金 10,201,379
62年度会費 1,773,000 @ ¥3,000 × 591名
預金利息 247,800 前年度600万円定期利息
12,222,179

<支出の部>

会議費 350,000 昨年同様
接待費 50,000 "
慶弔費 100,000 "
クラブ援助費 300,000 "
明倫祭代 350,000 "
記念品代 100,000 "
通信費 480,000 "
同窓会会報費 500,000 印刷費等
予備費 9,992,179
12,222,179

※備考 予備費 ¥9,992,179 の内訳
(定期預金 ¥8,000,000 普通預金 ¥1,992,179)

昭和61年度 明倫学園同窓会決算報告書

S. 62. 3. 31

収入額	支払額	残額
¥11,669,199	¥1,467,820	¥10,201,379

<収入の部>

(単位 円)

前年度繰越金 9,293,531
61年度会費 1,785,000 @ ¥3,000 × 595名
預金利息 425,458 定期普通預金
寄付・お祝金等 80,350 寄付・お祝い
明倫祭収益金 84,860 売上代金
11,669,199

<支出の部>

会議費 162,530 幹事総会費他
接待費 36,000 お車代など
慶弔費 30,000 卒業式生花代等
クラブ援助費 230,000 ハンド部他
明倫祭費 204,000 明倫祭活動費
記念品代 60,000 ご退職者記念品
通信費 373,300 明倫祭通信費他
予備費 371,690 旅行費補助等
1,467,820

以上ご報告致します。(5月27日幹事会で承認されました)

母校だより

62年度 在校生

県下私立高校の入学試験は例年2月18日に実施されている。

本校でも多数の応募者に対して、本年度は、普通科四三二名、商業科一五九名、合計五九一名の新入生を迎え、現在の生徒数は、二年生五四四名、三年生六二七名、総数一七六二名と大幅に生徒数は増加している。(4月10日現在)

職員室

生徒数の増加に伴い、現在の職員室も先生方の人数も増えて所狭しと机が並んでいる。若くステキな先生方が多いのにも、ちょっとびっくり!! 専任教諭 男38名・女23名(平均年齢37・0歳) 事務職員 男6名・女5名(平均年齢48・3歳) 講師 男10名・女24名(平均年齢42・8歳) 総数96名 この中には、本校卒業生として

て、専任教諭4名、講師2名、事務2名の方々が活躍中である。

クラブ活動の紹介

。バスバンド部・バトン部 横浜みなと祭のパレードには毎年出場しています。山下公園や伊勢佐木町でご覧になった方はぜひ声をかけて下さい。

ハンドボール部

全国でも有数の実力あるクラブとして、過去にも全国大会(インターハイ)12回出場、関東高校選手権大会13回出場のうち2回の優勝を記録している。今年も益々、好成績が期待される。

+++++

現在、本校には49ものクラブやグループが設けられ週一回は授業時間にも組み込まれて、全校生徒はいずれかに必ず所属して、活動をしている。ユニークな部活動としては、仏教研究や百人一首、奇術グループなどがある。次回よりこの紙面を借りて、母校の運動部や文化部の動きを少しずつ紹介し

ていこう。今回は紙面の都合上2部のみであしからず……

修学旅行

高校時代の数ある思い出の中でも一番心に残る修学旅行。母校では今も高野山参詣は続けられている。夜行列車に揺られた思い出も今は新幹線にデラックスバス。

今年は何と高野山から沖繩まで足をのばし、航空機を利用するという豪華版費用もおよそ九万五千元とのこと。ただし今後は毎年九州方面に統一されそうとのことである。

存知ない方もいられるのではないだろうか。そして、昔はえんじ色のラインのセラー服も今はこんな感じに变身。校章のデザインも少し違ってはいませんか?

お願い

同窓会会員の皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。このたびは同窓生による芙蓉会会報の発行にあたり、皆様のご協力をよりよくお願い致します。

名簿作成(発行)について
昨年度芙蓉会役員により卒業生名簿が完成いたしました。

会員の皆様方多数にご利用いただけましたら幸いと存じます。また、住所・氏名等の変更友人の消息をご存知でしたら、同窓会事務局まで必ずご連絡下さいませようお願い致します。

同窓会名簿
(家政女学校、高等女学校、高等学校 第1回〜36回)

一部 二千三百円
。来る9月27日明倫祭が行われます。芙蓉会では、毎年模擬店(おしるこ・おでんコーナー)を設けておりますが、当日の準備・販売等の手が足りず、会員の方のお手伝いが頂きたくよろしくご協力をお願い致します。

明倫祭にお手伝いしていただける方ご面倒でも、9月1日〜20日まで左記の所にご連絡下さい。

明倫学園事務局

〇四五(七三一)四三六一

吉田・荒海

《編集後記》

うっとうしい梅雨も雨が待たれる今日この頃です。会報発行のため度々学校へも足を運び若い校内幹事の先生方と心を一つにして色々相談し合い発行の運びとなりました。卒業生として母校の同窓会に会報がないことは寂しいものです。なにしろ、創刊号なので色々不備な点も多々あると思いますが、なにとぞ、今後共会員皆様のよりよいご意見、ご忠告、ご提案を会報へお寄せ下さい。

同窓会の声の広場として、会報を通じて話し合えたらよいと思います。

原稿をお願いした理事長、学校長はじめ、皆様にはお忙しい中、本当に有難うございました。

この会報が皆様のお手元に届く頃には暑い夏がやってくると思います。どうぞ健康に気をつけて、明倫祭には、是非一度お出掛け下さるよう、幹事一同心よりお待ちしております。

第2回卒 菊地富美子

編集・発行人

学校法人 明倫学園

芙蓉会

横浜市保土ヶ谷区岩井町447番地

〒240 TEL731-4361(代)

印刷所 (有)ことぶき印刷

横浜市南区永田東3-9-6

TEL731-1935